

戸澤隆広 (2016 年度日本英語学会新人賞受賞)

このたびは、拙論文“On Labeling in Free Relative Clauses in English”に対し、日本英語学会新人賞を授与いただきまして、大変光栄に存じます。また、このような名誉ある賞をいただき、恐れ多く、身の引き締まる思いでもあります。学会賞委員の先生方のお心遣いに感謝申し上げます。

拙論では(1)と(2)のような自由関係節の派生を扱いました。

(1) Stop [whatever you are doing].

(2) We will love you [whatever you do].

(1)では、自由関係節が動詞 **stop** の補部で、名詞句として振る舞います。一方、(2)では自由関係節が譲歩の副詞節として振る舞います。これらの自由関係節に対し、統一的な分析を試みました。

私は人間的にも学問的にも未熟者であります。このような私が受賞できましたのも、中村捷先生、金子義明先生、島越郎先生、三好暢博先生のご指導の賜物であります。先生方におかれましては、論文の読み方、データ収集の仕方、議論の組み立て方、帰結の導き方など、手とり足とりご指導いただきました。とりわけ、中村捷先生におかれましては、先生のお部屋で、喫茶店で、または大学の廊下でも、たくさんご指導をいただきました。怠けてばかりの私を見放さずにご指導いただき、感謝してもし尽くせません。また、東北大学英語学研究室の先輩・後輩の方々には折に触れてディスカッションをしていただき、大変感謝しております。研究発表があると、それに先立ち、院生の間で発表の練習をするのですが、そこで論理的矛盾、分析の反例、説明不十分な点などの指摘をいただきました。議論が熱を帯び、夜遅くまで続くこともありました。院生とのディスカッションは大変厳しいものでありましたが、そのおかげで、発表内容を洗練させることができ、より自信を持って研究発表に臨めました。また、ディスカッションは論理的思考法を養う訓練ともなりました。研究室の仲間には、多くを勉強させていただき感謝しております。

私はたくさんの方々からご指導いただいておりますが、学問的に成長できていないことに歯痒さを感じております。今後、成長できるかどうかは私の努力次第であります。前進できるよう努力を続け、いつか少しでも、英語学研究に貢献できればと思っております。改めまして、この度は新人賞を授与いただき、ありがとうございました。